

加 佐

2月号

令和8年2月2日

舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



きらくなPTA



今期1年をかけて、PTAの規約改正を進めました。世間では様々に報道されるとおり「任意なはずなのに、半強制的に加入させられる。」「断りにくい選挙のしくみ」「やらなければならない事業が決まっている。」「会議が多い。。」・・・などなど、PTAが敬遠される傾向は全国的にあるようです。加佐中学校の保護者さんはこれまでからも、活動に協力的で参観日や行事への参加率も高く、有難い。しかしながら、生徒数の減少は保護者数の減少ですから、これまでも「委員・役員的人数」や「選出方法」について改正を続けてきました。そもそものPTAの主旨とか存在意義は、今も昔もかわらず「子どもの成長をみんなまで協力して見守りましょう！」のはずです。これは都市部であっても、過疎地域であっても同じはず。だけど「PTAがしんどい。。」「役員は気が重い。。」どこがネックなのか？を考え続けていました。

「学校からの見え方」と「保護者からの見え方」の両方を考え合わせて、今期大きな変更を提案しました。

発想の大転換は「お財布を持たない（会費を集めない）」という点です。厳密には、どうしても必要な分担金とか、入学式・卒業式での記念品代とかは頂くんですけど、それも学校徴収金に含んで、一律に頂戴して支払いをします。（その点では「任意加入の原則に反する。」と言われるかもしれませんがね。）

会計を持たないことで組織がすごく「軽くなる」のです。お金をお預かりすると、正しく執行する組織体制が求められるので、委員・役員をきちんと定めなければなりません。同様に事業計画・事業報告が必要ですから「やらなきゃならない事業が決まっている。」のもココに起因します。

規約改正では、これらに関わる条文を思い切って整理しました。誤解のないようお伝えしたいのは、「PTAが解散するの？」ではなく、主旨・目的を会員相互に確かめ合い、あとは「何もしない」団体にフルモデルチェンジするのです。PTAが主催事業をしない（何もしない）かわりに、中学生が保護者さんや地域の皆さんをご招待する活動「新しい放課後活動」を定期的に行います。（来年度は文部科学省の先行事業（現在申請中）を受けて、本格的に進めようとしています。）

保護者さんは、PTAの主旨・目的に則り、子どもの成長を見守るべく、夕方の学校に寄ってください。そして子どもと一緒に遊んでください。保護者が集まれば話も弾むだろうし、教職員と出会えば、相談もしやすいでしょうか。そこに地域の皆さんも寄ってもらえば、「加佐ならではのコミュニティ」が生れる（理想的！）。財布を持たないと言いましたが、部活動後援会費は暫定的に残しています。今後の地域展開の進み具合で検討することになります。また他団体・会議への参加招集も若干あるので、最小限の本部役員さん6名をお願いしています。本部役員さんの選出方法もあえて細かく決めていません。願わくは「今度は私がしょうか？」とか「小学校の役員を受けるから・・・こらえて。」とか相談しながら互選で決めてもらいたい（理想的！）。

細かくキチンと決めるのは、日本人のよい性格なんですけど、いろんなことを決め過ぎて苦しくなったのなら、一旦脱ぎ捨ててリセット！ 主旨に立ち返り、ゆったりきらくなPTAになりませんか。

「おとなの大らかさ」が、子どもたちの「豊かな成長」につながるようにと願っています。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同